

令和5年度第1回福岡県スポーツ推進審議会

# 会 議 要 旨

1. 開催日時

令和5年5月12日（金） 14時00分～15時30分

2. 開催場所

公益財団法人福岡県中小企業振興センター 2階大ホール

3. 出席者

片峯会長

城戸副会長

穴井委員

石橋委員

浦田委員

緒方委員

片平委員

染谷委員（オンライン出席）

長尾委員

中山委員

野口委員（オンライン出席）

橋口委員

針谷委員

松尾委員

山田委員

4. 審議の内容

**【事務局】**

- 委員紹介
- 事務局紹介

**【事務局】**

それでは、開会にあたりまして、知事からご挨拶申し上げます。

## 【服部知事】

皆さんこんにちは。福岡県知事の服部誠太郎でございます。

自席よりご挨拶をさせていただきます。どうぞお許しく下さいませ。

本日は大変お忙しい中に福岡県スポーツ推進審議会、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

委員の皆様方には日頃から、本県スポーツの振興・発展にご尽力を賜っておりますことに、この場をお借りいたしまして改めて厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

本日のこの審議会でございますが、福岡県スポーツ推進計画につきまして、令和6年度からの次期計画、この策定にあたって、諮問をさせていただきたいと考えております。

このスポーツ推進計画でございますが、平成26年3月、誰もが気軽にスポーツを楽しむことができる環境の整備、そして、スポーツを通じた元気で活力ある県民生活や地域社会の構築、これを基本理念といたしまして、福岡県スポーツ推進計画の策定をいたしました。

その後、本審議会の皆様方からの答申をいただきまして、この答申をもとに、平成30年12月には、福岡県のスポーツをより元気に、そしてそのスポーツによって、福岡県をより元気という基本理念、このスポーツ立県福岡、この基本理念をもとに、後期計画を策定いたしまして、スポーツについての取り組みを進めているところでございます。

現行の計画期間を振り返ってみますと、まずは福岡県スポーツ推進条例というものを施行いたしました。

この推進機関として、知事部局において、スポーツ局を設置いたしました。

そして、スポーツ推進基金、それからスポーツコミッションを設置したところでございまして、取り組みを大きく前進させることができていると考えております。

この間には、ラグビーワールドカップあるいは東京オリンピックパラリンピック競技大会が開催され、ここでは、本県ゆかりの選手の皆さんが大いに活躍をされましたし、また世界体操・新体操この二つの大会が同時に同じ北九州市で開催されるなど、初めての大会開催がございました。

またブレイキンワールドシリーズ、今年の2月に世界約50カ国からの選手の皆さんにご参加をいただき、大変盛況でございました。

このような大会の誘致、開催に成功したところでございます。

今年は皆さんご存知の通り、世界水泳選手権2023福岡大会が予定をされており、一昨日は別府で来年の春にDESTINATIONキャンペーンの全国会議がありました。そこで大いに話題になったのが、ツール・ド・九州2023でございました。

約400kmのコースを駆け抜けるという、九州で初めての国際サイクルレースでござ

います。

このようにスポーツにはこうした大規模な大会の開催というものを通して、見る方に勇気を、感動を与え、また子どもたちには夢を与える力を持っており、また国内外から多くのお客様をお呼びすることができる、誘客することによって、地域の活性化、地域経済を活性化する効果もあるわけでございます。

当然そのスポーツをする方にとっても、楽しさ、或いは喜びというものも感じていただけるものであると感じております。

今の計画期間の中で忘れてはならないことが、つい5月8日に感染症法上の位置付けが5類に変わったばかりでございますが、3年以上にわたる新型コロナのパンデミックに我々は大いに苦しめられてまいりました。

県民の皆様、事業者の皆様の大きなご協力によって、8回にわたる感染の波を何とか乗り越えることができ、そして今日を迎え、これから社会・経済が平時に戻っていくということが期待されるわけでございます。

こういう中でございますが、やはりこの社会の課題も考える必要がございます。

高齢化の進行、そしてまた本県においても、平成28年以来ずっと子どもの出生数は減少を続けております。

この少子化問題、そして、今業界を賑わせておりますチャットGPTなど生成AIの問題がよく取り上げられておりますが、こういった先端技術、特にデジタル技術の進展、デジタル化の進行等もございます。

さらに、学校現場の運動部活動の地域移行というのも大きな課題でございます。

このような社会情勢の変化というものも機敏にとらえていく必要があると思っております。

このような中でも、引き続き、スポーツ立県福岡の実現に向けて、我々は社会、市町村あるいは関係各団体の皆様方、また民間の皆様そして、県民の皆様方と思いを共有して、取り組みを進めていきたいと考えております。

県といたしまして、これまでの施策というものをさらに発展させ、推進をして、前進、発展させていきたいと思っており、これによって、スポーツの力で、福岡県に活力をもたらす、そしてまた、活性化した地域がさらにスポーツを支援することができる、こういった好循環を生み出していく必要があると考えているところでございます。

委員の皆様方には、それぞれの立場からぜひ次期計画に向けて、忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。

ぜひよろしくお願い申し上げまして、私のごあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。

#### 【事務局】

ありがとうございました。

続きまして、スポーツ推進計画の策定にあたりまして、知事から審議会会長へ、諮問書をお渡しさせていただきます。

知事、会長は、前方にお願いします。

#### 【服部知事】

福岡県スポーツ推進計画の策定に当たり、スポーツ推進条例第11条第2項の規定により、スポーツ立県福岡の実現に向けて、議会に意見を求めます。よろしくをお願いします。

#### 【事務局】

写真をお願いします。

(写真撮影)

ありがとうございます。

知事、会長お席にお戻りください。

それでは、片峯会長ご挨拶をお願いいたします。

#### 【片峯会長】

ご紹介いただきました審議会会長の片峯でございます。一言ご挨拶いたします。

本日は大変お忙しい中、福岡県スポーツ推進審議会にご出席賜りましたこと、誠にありがとうございます。

ただ今、服部知事から諮問をいただきました。

私といたしましても、各委員の皆様方のお力添えをいただきまして、「スポーツ立県福岡」の実現に取り組んでいく、新たな方向性を示すことができるよう、答申をまとめていきたいと考えております

委員の皆様には、ご協力・ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

知事から、お話がありましたように、委員の皆様のご尽力で平成30年度に現行の「スポーツ推進計画」の策定に至りましたが、その後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、スポーツ振興にも大きな影響を与えております。スポーツ大会やスポーツイベントの延期や中止、更には運動施設の休館などスポーツの機会が失われておりましたが、ようやくスポーツができる環境が戻ってきたと実感しているところであります。

私も委員の皆様と同じように、長いことスポーツの世界に身を置かせていただいております。本当にスポーツは大きな力を秘めております。

福岡県では、これまでも様々な成果を上げておりますが、まだまだ成長できると信じております。

その成長・発展を導くための「スポーツ推進計画」でございます。我々審議会委員といたしましても、“福岡県のスポーツをより元気に、スポーツの力で福岡県をより

元気に” するためにも施策に対する意見や提案を行っていく必要があると思います。  
委員の皆様には、是非この審議会で活発な議論をしていただき、今後につながるご意見をいただきますようお願い申し上げます。私の挨拶にかえさせていただきます。  
今日はよろしく願いいたします。

**【事務局】**

ありがとうございました。知事は公務のため、ここで退席させていただきます。  
知事から会長にお渡しさせていただいた諮問書のコピーを皆様にお配りいたしますので、しばらくお待ちください。

**【服部知事】**

よろしくお願い申し上げます。（知事退室）

**【事務局】**

では、ここから審議に入ってまいります。本審議会の議事につきましては、その要旨をまとめ、本県のホームページに掲載することとしております。

では、ここからの議事の進行につきましては、片峯会長にお願いします。

**【片峯会長】**

それでは、さっそく審議事項に入ります。

まずは、計画策定について、事務局から説明をお願いします。

**【事務局：高木課長】**

失礼いたします。

本年度からスポーツ局スポーツ企画課長を務めさせていただいております、高木でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。座って説明をさせていただきます。

次期福岡県スポーツ推進計画の策定についてでございます。

先ほど、知事からご説明がございましたが、平成 30 年度に本審議会からいただきました答申を踏まえ、現行のスポーツ推進計画を策定し、それから 5 年が経過いたしました。

次期スポーツ推進計画の策定に伴う諮問において、先ほど知事から諮問書をお渡しさせていただきました。現行計画の期間中に、国においては、第 3 期スポーツ基本計画の策定、運動部活動の地域移行に関する提言、県におきましては福岡県スポーツ推進条例の制定、スポーツ局の設置、スポーツ推進基金、スポーツコミッションの設立など多くの動きがございました。これらの状況に加え、現行計画の実施状況やスポーツを推進していく上での課題等を踏まえた協議が必要であろうと考えているところでございます。

特にこの3年間、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、スポーツは「不要不急」のように扱われ、様々なスポーツ活動が中止・延期を余儀なくされました。その結果、個人では体力の低下、心身の健康保持への悪影響が生じ、また社会といたしましては企業収益の低下や、地域における交流活動の停滞などが生じました。しかし、平時には気づくことができませんでしたが、豊かな生活を営む上で、スポーツが持つ大きな影響力を再認識するとともに、スポーツ活動を止めないという新しい課題も見えてきた気がいたしております。

従来の取り組みはもとより、新型コロナウイルス感染症のように急激に変化する社会情勢の中において、スポーツ活動を止めることなくスポーツに親しんでいただけることや、急速に生まれ広がる新たなスポーツへの早急な対応が必要であると考えております。

委員の皆様方におかれましては専門的な知見やこれまでのご経験からご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

お手元に配付しております、「次期福岡県スポーツ推進計画の策定について」の資料をご覧ください。

1 ページ目をお願いいたします。まず、次期スポーツ推進計画の策定にあたって、現行計画の計画期間中の本県及び国の動きを掲載させていただきました。本県の取り組みについては、資料の左側に記載のとおり、ラグビーワールドカップ 2019 の開催、福岡県スポーツ推進条例の施行、スポーツ局の設置といった本県の動きを記載いたしております。資料の右側には、社会状況の変化、国の第3期スポーツ基本計画の策定といった国の動きを掲載しております。このような期間中の様々な動向を踏まえまして、次期スポーツ推進計画を策定することが必要であると考えております。

次のページをお願いいたします。昨年度に実施しました「県民の運動・スポーツに関する調査」について、ご説明させていただきます。

なお、本調査の調査報告書につきましては、緑色の冊子をお手元に配付しておりますので調査結果の詳細については、そちらの資料をご確認いただきますようお願いいたします。この調査は、本県における県民のスポーツの実態及びスポーツ振興に係る県民のニーズを把握し、今年度策定する次期「福岡県スポーツ推進計画」の基礎資料を得ることを目的といたしまして、県内に居住する 18 歳以上の男女個人を対象に実施をいたしました。その調査結果を抜粋して簡単にご説明をさせていただきます。

まず「この1年間に行った運動やスポーツの実施頻度」では、週1回以上が 45.0%で、現行計画の目標を達成できていないものの、これまでの取組の成果として平成 24 年度調査の 36.3%、平成 29 年度の前回調査の 40.6%と比較すると年々上昇している傾向がございます。

3 ページをお願いいたします。「運動やスポーツを行った理由と全く行わなかった理由」についてですが、資料の左側、運動やスポーツを行った理由で最も多かったのは「健康・体力づくりのため」となっております。また右側、運動やスポーツを行わなか

った理由で最も多かったのは、「仕事や家事・育児等で忙しく時間がなかったため」となっており、グラフには示しておりませんが、年代別で比較しても20代～40代の働き盛り・子育て世代のスポーツ実施率が特に低い結果となっておりました。

4ページをお願いいたします。資料上段の「今後の運動やスポーツ実施意向」について、実施意向ありと答えた人は83.1%と前回から4.2ポイント上昇いたしました。また、運動頻度が多い人ほど「ぜひ、してみたい・続けたい」という強い継続意向を持つ割合が高いという結果もでております。続いて、資料下段の「運動やスポーツを行うための条件」では、身近なスポーツ施設や運動できる場所があることが46.6%で最も多い結果でした。

5ページをお願いいたします。資料上段の「新型コロナウイルス感染症発生前後における運動・スポーツ面での変化」については、新型コロナウイルス感染症の発生により、約5割の人が運動・スポーツ面で何らかの影響を受けており、その内容は「自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった」が最も高く、次いで「スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛された」となっています。続いて、資料下段の「福岡県内で大規模国際スポーツ大会を継続的に開催することについて」では、約7割が大規模国際スポーツ大会の継続的な開催を要望しており、また、その理由として「子どもたちがスポーツの夢や目標を持つきっかけとなること」という理由が72.6%で最も高く、次いで「トップアスリートによる競技を間近で観戦したり、交流したりできること」が53.9%、となっておりました。

6ページをお願いいたします。左側のスポーツを通じた地域活性化については、「スポーツは地域活性化に役立つと思う」の回答が8割を超えており、スポーツを活かした方策として地方自治体に期待することは、「子どものスポーツ機会の充実」が52.7%で最も高く、次いで「国際スポーツ大会やキャンプ地の誘致」が27.3%となっています。続いて、右側のスポーツが個人や社会にもたらす効果については、「健康・体力の保持増進」が84.6%で最も高く、次いで「精神的な充足感」が53.7%、となっております。

簡単ではございますが、以上が、昨年度実施した「県民の運動・スポーツに関する調査結果」の概要でございます。

続きまして、現行計画の総括についてご説明をさせていただきます。

7ページをお願いいたします。まず、現行計画における施策体系ですが、基本理念といたしております“福岡県のスポーツをより元気に、スポーツの力で福岡県をより元気に”という「スポーツ立県福岡」の基本理念を踏まえ、7つの柱を掲げており、その柱ごとに説明させていただきます。柱の1つ目、スポーツに関わる人が増えるについてでございます。目標につきましては、上段の白い四角囲みに2つの目標を掲載いたしております。1つ目の「県民の3人に2人は週1回以上スポーツを行っていること」では、実施している割合は45.0%で平成29年度の調査の時の40.6%と比較して、改善はして

いるものの、目標達成には至りませんでした。2つ目の「3人に1人は週3回以上スポーツを行っていること」につきましても、実施している割合は22.4%で同じく改善は見られるものの、目標達成には至っておりません。これらにつきましては、右下掲載のような各種事業を展開してきたところではありますが、課題として先ほどの調査でも申し上げましたけれども、「仕事や家事・育児等で忙しく時間がなかった」などが挙げられておりますので、特に働き盛り・子育て世代のスポーツ実施率が低いことから、ライフスタイルに応じた更なる施策の必要性を感じているところでございます。

なお、7ページの右上に記載しておりますけれども、目標達成状況としまして、達成を◎、一部達成を○、前回から改善しているものの未達成を△、未達成を×ということを示しております。

8ページをお願いします。柱の2つ目、子どものスポーツ機会が充実するについてでございます。この柱については、子どもの運動実施率と体力・運動能力合計点の向上の2つの目標を置いております。中段左側のグラフに示しました運動実施率をみますと、週3回以上、スポーツを行っている子どもの割合は、52.2%で平成29年度の前回調査と比較して4.8ポイント上昇しているものの、目標は達成できておりません。この結果は、新型コロナウイルス感染症の影響により、体を動かして遊ぶ機会が減少したことなども影響しているものと考えております。

体力合計点の向上では、下段に示しておりますグラフをご覧くださいますと、小学校の男女、中学校の男女の4つのグラフから、小学校女子以外は全国平均値を上回っていることが伺えます。運動に対して苦手意識をもつ子どもに対し、体育授業において、運動やスポーツを行うことが「楽しい」と感じてもらえる経験を積み重ねていくことや、運動を身近に感じるができる取組を更に進めていく必要があると考えております。

9ページをお願いいたします。柱の3つ目、アスリートの競技力が向上することについてでございます。この柱では3つの目標を置いており、3つ目の、大規模スポーツ大会において、本県ゆかりのアスリートが優秀な成績を収めているという目標について説明させていただきます。この目標では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、過去最多となる54名の本県ゆかりの選手が出場し、うち16名の選手がメダルを獲得いたしました。これにより、多くの県民の皆さんに元気と感動を、後に続く子どもたちに夢や希望を与えてくれたものと推察いたしております。この結果は、競技特性に応じた人材の発掘や有望選手に対する支援等のトップアスリート育成・強化に取り組んだ結果であり、今後も引き続きアスリートの競技力向上に資する取組を継続することが重要であると考えております。

10ページをお願いします。柱の4つ目、大規模スポーツ大会が盛んに行われることについてでございます。ここでは、毎年、大規模スポーツ大会や強化合宿等を誘致・開催していることを目標といたしております。左側に大規模スポーツ大会・合宿の開催実績を掲載しておりますけれども、令和元年度から大会や合宿を毎年開催することができ

ております。この4年間、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、積極的な誘致活動の結果、世界体操・新体操選手権北九州大会やブレイキンワールドシリーズ北九州大会等の大規模スポーツ大会の開催も実現しました。大規模スポーツ大会の開催は、国内外のトップアスリートの活躍に直接触れることで、子どもたちの夢や希望を育み、県民がスポーツへの関心を高めるなど、競技力向上やスポーツ振興に繋がるほか、国内外からの誘客による地域経済の活性化など様々な効果をもたらすものであり、今後も継続する必要があると考えております。

11 ページをお願いいたします。柱の5つ目、健康になる、生きがいが増えるについてでございます。1日あたりの平均歩数を目標としておりますが、現状としましては、20～64歳の男性で7,318歩、女性では6,395歩となっております。楽しみながら継続して健康づくりに取り組めるよう職場や市町村対抗のウォーキングラリーの実施といったスポーツを通じた健康づくりの推進等に取り組んだものの、前回調査からは減少しており、目標を達成することには至っておりません。特に65歳以上の男性における平均歩数が大幅に減少していることは、新型コロナウイルス感染症に対するリスクが高齢者に高いことも影響しているとも考えられ、各年代に応じた更なる取組を進めていくことが必要であると感じております。

12 ページをお願いします。柱の6つ目、人を育み、共生社会が実現するについてでございます。この柱の目標は4つ置いておりますけれども、4つ目「1年間に全くスポーツを実施しない60歳以上が25%以下になること」については、実施しない割合は27.5%で計画策定時の34.8%から改善はしているものの、目標の25%以下には届いておりません。東京パラリンピックでは、我々は多様性を認め、互いに尊重し、支え合うことの大切さを改めて認識させられました。年齢や性別、障がいの有無に関わらず全ての人々が分け隔てなくスポーツを楽しみ、互いに理解し尊重しながら、共生社会を実現するための取組を更に進めていく必要があると考えております。

13 ページをお願いします。柱の7つ目、地域と経済が活性化するについてでございます。この柱では2つの目標を置いておりますけれども、2つ目の目標であります「スポーツが地域活性化に役に立つ」と思う人が、全ての世代で80%を超えていることを取り上げてご説明させていただきます。現状では、10代～60代で達成しているものの、70代以上が78.8%で達成には至っておりません。今年度は、「世界水泳選手権2023福岡大会」、「ツール・ド・九州2023」といった大規模国際大会を県内で開催予定でございます。こうした大規模国際大会の開催、スポーツを通じた観光振興、国際交流等を推進することにより地域と経済の活性化につなげることが重要であり、より多くの方に大会への関わりを感じていただくこと、スポーツが持つ力を再認識していただけるよう、そういった大会とすることが重要であると考えています。

以上が現行計画の総括でございます。

続きまして、次期スポーツ推進計画の方向性についてご説明させていただきます。

14 ページをお願いいたします。1 の基本理念についてでございます。現行計画の基本理念でありました「福岡県のスポーツをより元気に、スポーツの力で福岡県をより元気に」という「スポーツ立県福岡」の実現、これについては、先ほど総括をご説明いたしましたが、まだまだ十分でないところもございますし、まだまだ伸ばせることもたくさんあると考えております。我々といたしましては、次期計画についてもこの基本理念を継続したいと考えております。

次に2の計画期間についてでございます。令和3年度に国が策定いたしました第3期スポーツ基本計画、そして、県政の各分野における施策の方向を示し、本県の行政運営の指針となる福岡県総合計画においても、計画期間は5年としております。また、近年のスポーツ界は、新たなスポーツが生まれ、あっという間にオリンピック競技となるなど、我々がついていけない程、急速な変化をしております。現行計画では10年の計画を策定し、5年で中間見直しを行っておりますが、現状では10年後の具体的な計画を策定することは難しいと考えております。そのため次期スポーツ推進計画においては、本県の目指すべきスポーツシーンを見据えながら、具体的な計画については5年間としたいと考えております。

次に3のスポーツの範囲についてでございます。令和2年度に制定いたしました福岡県スポーツ推進条例において定義いたしております「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得等のために個人又は集団により行われる運動競技その他の身体運動（レクリエーションとして行われる身体活動等を含む）」とし、スポーツを幅広い範囲で捉えることとしたいと考えております。

続いて、4の審議会で検討いただくにあたり特に踏まえていただきたい視点についてでございます。これまで現行計画の総括についてご説明をしまいましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止を余儀なくされる大会やスポーツ活動の中止といったこともございます。このように急激に変化する社会情勢においてもスポーツの営みを止めないことに加え、諮問書の3枚目に記載しております4つの視点が重要であるとと考えております。

資料の15 ページをお願いいたします。次期計画の施策体系案につきましては、新たな観点をもって臨む必要があると考えております。参考までに現行計画の施策体系を示しておりますが、次期計画におきましては、現状の課題と将来像をしっかりと見据え、福岡県らしさを打ち出せる施策体系となるよう検討していきたいと考えております。また、後ほど今後のスケジュールについてご説明をさせていただきますが、9月に第2回審議会を開催させていただく予定でございます。委員の皆様方には書面による方法になるかと思いますが、それまでには施策体系案を一度お示しをさせていただきますが、ご意見をいただきたいと考えております。その際は、ご協力いただきますよう宜しくお願いいたします。

説明は以上でございます。

**【片峯会長】**

ただいま事務局の方から説明がございました。委員の皆様には資料を事前に送付しておりました。

本日欠席の委員より貴重なご意見いただいておりますので、事務局から併せてその報告もお願いいたします。

**【事務局】**

はい。失礼いたします。本日ご欠席なられております、福岡子ども短期大学教授の瀧信子委員からご意見をお預かりしております。

資料1、8ページの子どものスポーツ機会が充実する、という定義におきまして、子どもの3人に2人が週3日以上スポーツを行っていることの目標値、令和5年度での65%は現状の52.2%という数字を踏まえて、見直しが必要であるとする。コロナ前より、コロナ禍においても、数値が上昇していることは望ましいことではあるが、今後の目標数値としては、一度現状に戻して設定をしていく必要があるとする。学校においては、スポーツ環境の充実を図り、様々な取り組みが実施されており、このような企画や取り組みがさらに充実してくることを期待するとともに、学校以外で、スポーツに取り組むことができる環境の整備や、週3日以上スポーツを行っていない人の仲間づくりやきっかけ作りをする企画があればよいとする。というご意見をいただいております。

また、福岡県中学校体育連盟会長の野口修司委員の方からは、公立中学校の部活動地域移行に当たり、各中学校は、地域の指導者等を探しているがなかなか見つからない現状があります。地域における指導者育成や人材バンクの充実等をより推進させていく必要があります。というご意見をちょうだいしております。

ちょうだいしているご意見は以上です。

**【片峯会長】**

はい。事前にご意見等賜った部分を含み、委員の皆様、質問等ございませんでしょうか。

質問等ご意見ありましたらお願いいたします。

**【城戸副会長】**

福岡県のスポーツ協会でございます。

皆様方には本スポーツ協会の運営にあたりまして、ご支援、ご理解、ご協力等々をいただきまして、感謝を申し上げます。

今年度のスポーツ協会の説明をさせていただきたいと思っておりますが、今年度より今までと若干違ひまして、組織の改編そして、内容、業務内容の変更をいたしております。特

に本年度、福岡県スポーツ局、それから県教育委員会、そしてスポーツ推進基金の皆様方のご支援をいただきまして、若干の増員をいたしております。

そして、特に今までなかなか整理ができなかった運営の中で、組織を競技スポーツと地域スポーツというこの二つに大きく分けまして、それを今年度から実施していこうと思います。皆様方には競技団体、それから地域のスポーツ協会、体育協会等々には、ずいぶんご迷惑をおかけいたしました。今年度からより良い形で、皆様方にスポーツ協会としての活動をさせていただければと思っているところでございます。

事前にいただいた資料において、特にスポーツ推進計画の方向性ということで、今回の審議会で特に検討するにあたり、踏まえていただきたい視点というところが、14ページでございます。

その中で、スポーツの営みを止めることなく、多様なスポーツを親しんでいただける方策ということでございます。このことにつきましてスポーツ協会の立場といたしましては、持続可能なスポーツ環境をつくるためにはどうしたらいいかという視点が大事なのではないかということを考えているところでございます。

特に次の15ページ、現行の計画の中で、競技団体、地域団体からいたしますと、Ⅲアスリートの競技力が向上する、その中の4競技力向上のための環境を整備するということが、私共の競技団体に関する問題ではないかと思っております。

従いまして、このⅢの4、競技力向上のための環境を整備するという観点から、競技力向上を図るための持続可能な環境をつくるのが大事ではないかと考えております。

結論から申しますと、施設と財源が今後必要になってくるのではないかと考えております。

今までも多数、大規模スポーツ大会が行われており、この福岡県は素晴らしい誘致をする力を持っていると思います。

ただ、それを受け皿としての環境、競技場等々がかなり老朽化している部分があるのではないかと感じます。体育館などの施設、アリーナ等々は、それぞれの市それから県で大きな新しい施設ができていますが、メインとなるような競技場、例えば博多の森競技場がございすけども、もかなり老朽化している状態で使っております。

2019年にラグビーワールドカップが開催されましたが、ラグビー協会の一員としてその誘致に携わってきたときの感じからしますと、なかなか他県のような、キャパが広く、そして立派な施設がなかなかなかったということで、厳しい状況もありましたが、無事ワールドカップ誘致ができ、福岡市で開催することができました。

私の記憶では、博多の森競技場は観客数が満杯に近かった印象を持っています。

4、5年前に日本選手権がございましたが、あの時に私も博多の森競技場におり、満杯になったというイメージがございすけども、それ以後はあそこが満杯になったという感覚はございません。

そういった意味からも、福岡県が誇れるような施設が必要ではないかと考えておりま

す。

もう1点は、私どもの競技団体等が50近くございますが、競技団体が実際に運営する中で、競技団体の規模に極めて格差がございます。

大きい競技団体はビルを借りたり部屋を借りたりして、事務所を設けてある一方、小さな規模の競技団体では、自宅を使って事務所に行っている競技団体も少なくございません。

競技団体の活性化という点から、競技団体全部が入れるようなビルなどの施設ができればと思っております。

今はオリンピックセンターができていますが、以前は岸記念体育館のような施設があり、多くの競技団体があそこに入っていたという記憶がございます。

これは将来的な展望ではありますが、中長期的じゃなく、近未来的な希望として、実現しないかと思う次第でございます。

また、スポーツの力で福岡県をより元気にと、福岡県のスポーツを元気にするための提案ですが、スポーツの力で元気にとということでV、VI、VII番にあるような持続可能なスポーツ環境を作ることで、スポーツのSDGsという考え方を盛り込んではどうかと思っております。

スポーツ庁でも、スポーツを通じた社会貢献、スポーツの持つ巻き込む力や人を集める力を活用して、SDGsの制度の認知度を上げるということに取り組まれております。

県のスポーツ協会も、SDGsを謳ってはいませんが、既存の各種事業において、SDGsの目標達成に貢献する多くの事業を実施していると思っております。

したがって、自分たちの事業がSDGsに該当し、そしてこのSDGsを前面に出しながら、目標の達成を目指していくというようなことも必要ではないかと思っております。

競技団体、地域団体を統括する立場のスポーツ協会としては、今年度以降SDGsにおける内容も盛り込んでいきたいと思っております。

県においては、ぜひ施設や財源それからSDGsについて検討いただければと思っております。

以上です。

#### 【片峯会長】

視点が施設、財源、SDGsの3つがキーワードだと思いますが、そのことについて今後のこともありますので、何かありましたら事務局からお願いいたします。

#### 【事務局：高木課長】

はい。貴重なご意見ありがとうございます。

大規模等国際大会の誘致・開催にあたり先ほど城戸委員の方からもございましたが、ラグビーワールドカップの検討、スポーツの規模によっては、スポーツ科学情報センターの収容人数では、もう実施ができないというようなものも随分増えてきておりますし、その施設自体のあり方によっては、その競技自体ができないというものも随分増えてきております。

現在そうした施設をいかに有効に活用していくのかという視点、もし仮に改修が必要なものがあれば、今後生まれてくる多様なスポーツも念頭に置きながら、いろんな可能性を模索しながら改修していく、できる限り現存するものを活用していく姿勢です。

また、新たな大規模な施設を作っていく視点については、今後も関係各課とご相談をさせていただきながら、近未来に実現ができるように、進めて参りたいと思っておりますし必要性は感じております。

また、SDGsについて、国もスポーツ自体を推進していくというより、スポーツを活用していろんなことを推進していくという考え方を、進めているところでございますので、SDGsもどのような形で取り扱っていくのか、またそのほかにもスポーツを広い意味で使って、その役割や活用方法、またスポーツビジネスについても可能性を模索しながら、計画の策定ができればと考えております。

よろしくお願いたします。

#### 【片峯会長】

はい。城戸委員の方からお話があったように、今後の推進計画にも検討していただきたいと思っております。

SDGsも、将来的に人を育てる上では切っても切れないものがあると思っておりますので、その辺も踏まえて、推進計画も検討していただけたらと思っております。

よろしいですか。他に何かご質問ございませんでしょうか。

#### 【長尾委員】

はい。長尾ですよろしくお願いたします。

15 ページについて、提案があります。

大きなⅡの子どものスポーツ機会を充実するところの2子どもを取り巻く地域のスポーツ環境を充実させるについてです。

小学生を中心とした運動やスポーツに携わる遊びから、スポーツが環境的にはあると思っております。

一方、大人の運動する機会がまだまだ少ない、未達成であること、15 ページのⅡ番とⅤ番の健康になる、生きがいが増える、その2番のスポーツを通じた生きがいづくりを推進すると書いてあります。

コロナで運動会も見に行けなかったり、そういう時期がずっとあって、今それが緩和

されて観に行けるようになってきました。

昔の運動会は、子どもも大人も一緒にやっていましたが、自治会も弱まって、自治会のあり方も今いろいろ問題があって、一緒にできなくなっていることを踏まえると、高齢者を含む一般の方々の運動の機会を増やすためには、子どもの運動や事業などに結びつけ、一緒に行うという考え方がございます。

次の計画には、子どもの運動の施策に高齢者を含めた大人も一緒に計画として入れられるよう、Ⅱ番とⅤ番を組み合わせ、お子さんの習い事など一緒に過ごせる時間を作るのもよいのではと思います。

2つ目はⅦ番目、地域と経済が活性化する。

事前に資料を拝見したときに注目した箇所が1番目にあるスポーツを通じた県の魅力発信・観光振興を推進するです。私自身観光関係にも携わっており、世界遺産のところに大規模スポーツ大会に来るお客様や関係者を案内してみてもどうかというようなテーマがでており、私の地元である宗像の沖ノ島の世界遺産では、世界遺産登録から5年経って、再度アピールしようとしているみたいですが、地元では、少し失速している状況にあります。

改めてどうすべきか、という話が地元では話が出ており、大規模スポーツ大会にこられる方を対象に、県や市が現場の方と連携して沖ノ島の世界遺産にも足を運ぶなど観光振興にもつなげていただければと思っています。

以上です。

#### 【片峯会長】

はい。私の方からもいいですか。

私は大学の教授ですが、少子化と高齢化は切っても切れないところであり、スポーツにおいても影響というのもすごくあると思います。

ただ、世代的な問題で今長尾委員の方から話がありましたが、高齢者と子どもと一緒に運動できる企画も大事だと思います。

知事が挙げられていましたが、県民や子どもを育てるためにも検討していただきたいと思います。

それともう一つ長尾委員もおっしゃられましたが、文化とスポーツは切ってもきれないものです。

世界遺産をスポーツに絡めて、何かイベントを設けるなど、文化とスポーツは両輪と私は考えますので、スポーツ文化として検討していただきたいと思います。

以上です。

#### 【事務局：高木課長】

貴重な意見ありがとうございます。

大人と子ども、高齢者との繋がりですが、子どもが瞬間的にそのスポーツに感動したとしても、大人がそのスポーツに対する価値観を持っていなければ、スポーツを開始できないものです。

その環境を作るのは、お金を出してくれることや送り迎えをしてくれるのは保護者です。

また、保護者がスポーツを見て感動して子どもに習わせたいと思っても、子どもに意識がなければスタートができないものです。

お話をいただきましたように、子どもと保護者が一緒にスポーツを行える機会を増やすために、スポーツで感動させられる場面を描いたり、孫がスポーツをする姿を見に来る機会に合わせ、祖父母と一緒に運動できる教室などを開いたりすることへ繋げていければと感じています。それから、世界遺産については本当にありがとうございます。

片峯会長からもありましたが、文化、それから世界遺産などをスポーツと絡めることによって、大会自体の付加価値を高めることにもなり、世界遺産に関心があってスポーツには関心がないが、世界遺産に関心があるから見てみようという方々にスポーツのすばらしさを感じていただく機会を作ることに繋がる可能性があると思います。

いただいたご意見を踏まえた上で、計画の方を進めていきたいと思えます。

もう1点先ほど城戸副会長の方からいただきましたご質問で一つご回答してない部分がありました。

競技団体が入る施設、競技団体の事務局は競技団体によってパワーが違うので、そういう意味では一つに集まる事務室や建物があってもいいのではないかとということでしたが、国もできるだけこういう形を今とろうとしてるところです。

理由として、各競技団体を1か所に集めることにより、コンセンサスが出るのが早くなり、情報を共有し、さらに発展できるメリットもあります。

現在福岡に対応できるようなサービス施設はありませんが、今後起きうる感染症などの影響下において、1か所に集まることで、競技団体全体としての方針を迅速に決定することができ、緊急会議を開くことが可能になり、早急な対応、臨機応変に対応することができるため、非常に有効な手段であると感じております。

貴重なご意見、どうもありがとうございました。

#### 【片峯会長】

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

#### 【緒方委員】

レクリエーション協会の緒方です。

15 ページの I のスポーツに関わる人が増えるの 5 番のスポーツ関連情報を活用し充

実させることについて、情報共有させていただきます。

14 ページの3 スポーツの範囲において、一般の方の認識としては、単純に体を動かすことをスポーツととらえている方は少ないと思います。

この情報を充実させる、活用させるためにも、単純に体を動かすことはスポーツであることを発信していただきたいと思います。

また、子どもの体力面について、大人はウォーキングをスポーツととらえていると思いますが、子どもは通学で歩くことをスポーツととらえていないと思います。

その中で、姿勢が悪い、歩き方に違和感がある、肩こり・腰痛があるなどの現象が子どもにも起きていると聞いたことがあります。

今の子どもたちの中でこのような現象がどのぐらいの割合で増えてきたかは不明ですが、私が子どもの頃、友達の中には動きたくないという人もいました。

理由は、体を動かすのがきついと感じる、体を動かすのが苦手で動かせないというものでした。

その友人の中には姿勢が悪く、歩き方も走り方もあまり恰好が良くない印象がありました。

しかし、姿勢が良くなれば、歩くことが簡単になり、走ることが容易になり、子どもたちに対する教育になると思います。

アスリートの皆様は、美しい自分の体を維持するためのトレーニングを日々積んでいるからこそ、すばらしい姿勢になると思うので、日ごろの立ち姿や歩き方、足の運び方についての情報とあわせて発信することで、体を動かすことはもっと簡単に、気軽に、身軽に負担なくでき、スポーツをしているという認識を増やすことにつながると考えております。

ぜひ参考にしていただければと思います。

以上です。

#### 【片峯会長】

事務局ありますか。どうぞ。

#### 【事務局：高木課長】

ありがとうございます。元新体操選手の山崎浩子さんとお話をさせていただいた際に、一番大事なことって何ですかと聞いたとき、立姿とおっしゃっていました。

常にその立ち方や姿勢を意識しているため、体型を維持できているとのことでした。

おそらく2時間運動する人に比べ、私の方がカロリー消費量が多いだろうというふうに言われており大変貴重なご意見だと思います。

激しい運動、きつい運動をしなければいけないとっていたり、スーパースターのプレーを見て、感動はするものの、自分の世界とは乖離して考えることも想定できますの

で、今いただきましたご意見を踏まえ、また発信の方法についても、SNS等も考慮しながら、検討させていただきたいと思います。

ありがとうございます。

#### 【片峯会長】

はい。ウィズコロナの時代に突入して、情報をより密に発信していただきたいと思います。

他ございませんでしょうか。はい。お願いします。

#### 【針谷委員】

アーバンスポーツの針谷です。

先ほどから子どもや大人、高齢者で何かミックスできないかということでお話がありました。もし参考になればと思い一言述べさせていただきます。

アーバンスポーツというと、どの競技も若者のスポーツというイメージを持たれると思います。実際にオリンピックや世界大会などでチャンピオンになるのは10代の選手たちが多いのが現状です。

しかし、パルクールというアーバンスポーツの中にシルバーパルクールというものがございまして、欧米で高齢者に向けて体の使い方を思い出す動きであったり、安全に体を動かしたり転んだりすることを教えているパルクールがあります。今年2月に山口県で日本シルバーパークという教室を行いました。最年少の参加者が65歳、最年長が89歳の40人が参加していただきました。

日本で一番のコーチと言われている37歳の男性、それから日本のパルクールのトップ選手でありながらコーチをしている24歳の男性選手、去年のキッズ大会でチャンピオンになった9歳の女の子、この3人がその40人に向けて色々と教える教室でした。

内容は安全ですが、例えば76歳の男性がマットに転がって最後ぱっと立つみたいなのがなかなかできないものです。

そこに9歳の孫のような女の子が教えに行くと一回でできるようになりました。

3世代効果というか孫効果というか、それから76歳の男性も何度やってもできるようになっていました。

教室は1時間実施し、終わったあと次いつやってくれますかと皆さんから質問がありました。

アーバンスポーツは3世代が一緒になって、そういう教室ができる競技であると本当に実感した次第でございます。ありがとうございます。

#### 【事務局：高木課長】

私も海外で行われているパルクールを見させていただいたことがあり、本来若い方々

が競技として実施するのは様々な障害がある中で、回転をしたり、すり抜けていったりなど、ハードアクションを行う競技ですが、私が見させていただいたのは、スポンジ系のボックスに後ろからゆっくり座って、そして体を回転させて、反対側にゆっくり降りる、また次の障害を跨って超えていくもので時間は関係なく、一つ一つの障害を超えていくようなものでした。

シルバーパルクールの効果というのを少しの勉強させていただいているところでございます。

先ほど緒方委員からもありましたが、スポーツの印象を、少し違う方面から見ながら、いろんな活用ができないかという視点も交えさせて、進めさせていただきたいと思っております。

どうもありがとうございます。

#### 【片峯会長】

はい。どうぞ。これを最後にいたします。

#### 【浦田委員】

すいません、お時間が無い中ありがとうございます。

ゴールボール競技のシニアアドバイザーをしております浦田理恵と申します。

本日はありがとうございます。

私は長くゴールボールの現役の選手として活動させていただく中で、福岡県の皆様には本当に支えていただきました。

その中で、トップアスリートやオリンピック・パラリンピック選手が学校教育の現場の方に行って、子どもたちが選手との関わり合いの中で、高いレベルの技術を見たり、また、パラリンピック選手との間では、技術とともに、目が見えない中で、どのように生活やスポーツをしているのかというような視点で、子供たちへメッセージを送らせていただける機会をいただきました。

そして、それを今も継続的に福岡県では取り組まれていて、今年2月、北九州の高見小学校と北九州特別支援学校がコラボして、一緒にスポーツをするといった活動の支援を福岡県でされており、私も選手として参加させていただきました。

福岡ゆかりの現役選手もそうですが、引退した選手もたくさんいらっしゃると思えます。

そうした選手たちを活用しながら、よりスポーツで感動を届けたり、そして学校にお邪魔させていただいたりすることで、いろんな気づきを伝えることができます。

例えば給食を一緒に食べるときに、席まで一緒に誘導する仕方を見てもらったり、こういう声掛けをしたら、目が見えなくても助かると実感したりすることができます。

トップアスリートの派遣事業を継続的に行っていただきたいと思います。

お時間ありがとうございました。  
以上です。

**【事務局：高木課長】**

はい。ありがとうございます。

浦田委員の方には私も昔スポーツ夢大使という事業で、講師としてずいぶんお世話になりました。ありがとうございました。

私自身、子どもたちの笑顔と驚き、すばらしい感動を目の当たりにしました。

いただきましたご意見を関係各課、教育委員会としっかりと協議しながら進めて参りたいと思います。

よろしく願いたいします。ありがとうございます。

**【事務局：中島課長】**

すいません福岡県スポーツ振興課の中島と申します。

浦田委員には私どもの2月の高見小学校との交流事業にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

昨年からの事業を始めており、昨年度は6校で開催をいたしました。

スポーツを通じて特別支援学校と健常者の小学校、中学校、高校との交流をするという事業でございまして、大変好評でコロナ禍でも、支援学校の先生方にもしっかり実施していただき、本当にありがたく思っております。

この事業、今後も続けて参りたいと思っておりますので、また浦田委員につきましても機会がございましたらぜひ一緒できたらと思います。

よろしく願いたいします。

**【片峯会長】**

はい。ありがとうございました。

本来はオンラインの委員にもご意見を賜りたかったところですが、時間が迫っておりますので、次に進ませていただきます。

それでは次にございます今後のスケジュールについて、事務局の方から説明をお願いいたします。

**【事務局：高木課長】**

はい、失礼いたします。

続きまして、答申をいただきますまでの審議スケジュールについてご説明させていただきます。

資料2の今後のスケジュールについてをご覧ください。

先ほど当審議会の片峯会長に対して知事より諮問をさせていただきました。

今後でございますけれども、6月から9月にかけて外部有識者を交えたワーキンググループを3回程度開催したいと考えております。なお、ワーキンググループのメンバー及びテーマにつきましては、今後、会長と協議した上で進めさせていただきたいと考えております。

また、ワーキンググループのメンバーとしてご協力いただく委員の方には、改めてご案内させていただきますので、ご協力いただきますよう宜しくお願いいたします。

9月の上旬にはワーキンググループでの意見を踏まえた案を全体会議として審議いただき、中間まとめをしていただきたいと考えております。

その後、10月にパブリックコメントを実施し、いただいた意見を踏まえ、11月には第3回スポーツ推進審議会として、答申案について審議いただきたいと考えております。

そして、12月には審議会からの答申を受けまして、最終的には令和6年3月を目途に策定したいと考えております。

次期計画策定までタイトなスケジュールではございますが、ご協力いただきますよう宜しくお願いいたします。

説明は以上でございます。

#### 【片峯会長】

ただ今、事務局から説明がありましたが、質問やご意見があればお願いします。

ありがとうございました。それでは、審議事項については、承認ということで進めさせていただきます。

次に、報告事項に入ります。

福岡県スポーツ推進計画の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局：高木課長】

福岡県スポーツ推進計画令和5年度進捗状況についてご説明します。

福岡県スポーツ推進計画では、柱ごとに「目指す姿」及び「5年後の姿」を掲げており、これを進めるうえでの「施策の方向性」を示しております。

県では、この「施策の方向性」に基づき様々な具体的事業を実施しております。

それでは、資料3-1をご覧ください。

表の左側にスポーツ推進計画における目標や項目、右側にそれに対応する令和5年度の事業予定を記載しております。

継続事業については可能な限り昨年度の実績を併せて記載しております。また、グレーのセルに水色の文字で記載している事業については、昨年度以前に終了した事業を掲載しています。

令和2年度、3年度に引き続き、昨年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により

当初の計画通りに実施できなかった事業もございますが、すべての項目において、具体的な施策に取り組んできております。

一つ一つの個別の説明は省略させていただきますが、令和5年度からの新規事業についていくつか説明させていただきます。

7ページをお願いします。上から9つ目「福岡県部活動改革推進事業」ですが、人づくり県民生活部のスポーツ振興課及び文化振興課と教育庁の体育スポーツ健康課、教職員課、高校教育課並びに義務教育課が連携し、公立中学校における部活動の地域移行を推進するため、市町村における受け皿の整備や、指導者の確保・育成などの実証事業、市町村スポーツ協会の環境整備に向けた意識改革を行うこととしています。

続いて18ページをお願いします。

上から2つ目「ハワイ州との交流促進」ですが、米国ハワイ州とバスケットボールを通じた競技力向上や指導者育成などをテーマとした交流を行うこととしています。

さっそく4月にはハワイ州を訪問し、相互交流に関するMOU（基本合意書）を締結したところです。

続いて24ページをお願いします。

上から5つ目「富裕層を対象とした高付加価値・高単価な旅行商品造成」ですが、今年10月に開催するツール・ド・九州などのスポーツイベントも一つの契機として、本県が持つ食、文化、歴史といった強みを生かした欧米豪を中心とした富裕層向けの高付加価値・高単価な旅行商品を造成するものです。

続いて、その一つ下の「世界水泳選手権2023福岡大会を契機とした福岡プロモーションの開催」ですが、世界中から多くの方が本県に訪れます。

我々としては、この機を捉えて、福岡県の魅力を発信するPR動画を作成し、県内の周遊を促してまいります。

最後に、25ページをお願いします。

上から6つ目の「豪州ニューサウスウェールズ州との交流促進」ですが、昨年10月に我々スポーツ局と福岡県ラグビー協会とニューサウスウェールズ州のラグビー協会の3者でMOUを締結しております。

先ほどのハワイ州と同様ですが、競技団体とも連携して、相互交流による競技力向上や指導者育成などの取組を進めてまいります。

あわせて、ラグビーにとどまらず野球・水泳での交流も推進してまいります。

次に、資料3-2をご覧ください。

計画初年度に設定しました関連施策の数値目標の状況でございます。

最新値と併せて、既に目標年度を迎えた事業に対する値を参考として掲載しております。

新型コロナウイルスの影響により、事業の中止や縮小などを余儀なくされたり、実施いたしました参加者や利用者が当初予定していたほどにはならなかったりなど、目標

を達成できていないものや数値が思うように伸びていないものもごさいます。

その一方で、1ページにごさいます、比較的コロナの影響を受けていない「国や県の関係機関からのスポーツ情報の配信数」については目標を達しております。

この「国や県の機関からのスポーツ情報の発信数」が目標値に対し飛躍的に伸びている要因としては、Instagram や Twitter などの SNS を活用し、コロナ禍のニーズに沿ったデジタル配信を取り入れたことによるものです。

また、目標値には達しないものの、1ページにごさいます、「イノベーションカレッジ参加者数」は、各地区カレッジ・全体カレッジにおいて、県内 60 市町村どこにも共通した課題である「運動部活動の地域移行」、「地域のスポーツ環境のさらなる充実」をテーマとしたことで、参加者に学びの機会を提供することができ、当初値に比べ、約 2.7 倍に増えました。

2 ページから 7 ページまでの資料におかれましても、各柱における数値目標を事業ごとに掲載しておりますが、説明は、省略させていただきたいと思ひます。

ご了承ください。

コロナ禍が明けた現在、今まで以上の取組が活発化され、引き続き「スポーツ立県福岡」の実現に向けて、各種の施策・事業に取り組んでまいります。

説明は、以上でごさいます。

#### 【片峯会長】

ただいま事務局から説明がありました。

それでは、今の案件ですが、委員の皆さん、ご質問やご意見等ごさいませんでしょうか。報告ですので、よろしいかと思ひますが、議題、報告事項をすべて終わりになります。この際ですので、ご質問ごさいましたらご発言お願いいたします。

#### 【松尾委員】

時間がない中申し訳ごさいませぬ。

福岡県スポーツ推進協議会副会長を務めております。松尾と申します。

スポーツ推進協議会としては、部活動の地域移行にあたって、スポーツ推進委員の役割等を検討するため、昨年度、特別委員会を設置し、1 年間議論し提言としてまとめました。

その提言書を持ってきておりますので、事務局から配布していただきます。

提言書につきましては、後程目を通していただければと思ひます。

この提言を昨日、県の平間スポーツ局長と教育庁の田中教育振興部長にお話したところでは。

県下では 1,600 名もスポーツ推進委員がおりますが、新たな計画においても、地域スポーツを振興するうえでのスポーツ推進委員の役割やスポーツ推進委員との連携強化を

明記して欲しいという考えであります。

また、部活動の改革については、子どもたちのスポーツをする機会が失われることのないよう、しっかり取り組んで欲しいと思っております。

スポーツ推進委員としても、学校と地域との連携、協働を積極的に、生徒のニーズに応じた、生徒にとってよりよいスポーツ環境を作りと考えております。

以上でございます。

(片峯会長)

貴重な資料どうもありがとうございます。

クラブもですが、地域移行型になってスポーツ推進委員の使命も大きいものになると考えます。

事務局の方向かありますか。

【事務局：中島課長】

松尾委員ありがとうございました。

昨日の私どもの局長平間にもスポーツ推進委員協議会の鶴田会長が提言書をもってお見えになりまして、私も同席をさせていただいておりました。

いくつか意見交換をさせていただきましたが、部活動が地域に移行してくるという中で、スポーツ推進委員さんに関しましては、60市町村すべての市町村にいらっしゃる非常勤公務員の方々が非常に使命感を持って学校と地域をつなぐのは我々だと考えて昨年度1年間協議をされてきたということも伺っております。

部活動の地域移行に関しましては、地域側ではスポーツ推進委員さんのみならず、県下80以上の総合型地域スポーツクラブや22のプロ、セミ、スポーツクラブもございません。

また民間のスポーツクラブ等々もございますので、そのような方々としっかり意見交換しながら、この部活動の地域移行の改革期間である3年間しっかり考えて、子どもたちのスポーツ環境がこれを機会に駄目になったと言われないように、しっかり計画の中にも盛り込んで参りたいと思います。

松尾委員、ありがとうございました。

【片峯会長】

はい。ありがとうございました。

他にありますでしょうか。

委員の皆様方から貴重なご意見拝聴いたしました。

この意見を考慮しながら、推進計画を進めていきたいというふうに思います。

9月のワーキンググループで、より密なものが提示されまして、皆様方でご審議する

ことになると思います。どうか委員の皆様、3月の答申まで非常に多忙になると思いますが、ご協力よろしく願いいたします。

以上をもちまして、進行を終わらせていただきます。

事務局の方にお返しします。

#### 【事務局】

片峯会長、ありがとうございました。

それでは閉会にあたりまして、小林 人づくり・県民生活部長より、一言お礼のご挨拶を申し上げます。

#### 【小林部長】

はい。改めまして、ありがとうございました。

自席から失礼いたします。

皆様方本当に今日お忙しい中、長時間にわたりまして、熱心にご審議いただきました。ありがとうございました。

片峯会長のご挨拶の中にもありましたが、私もスポーツは大きな力を秘めていると思います。

ここにお集まりの皆さま全員、同じ気持ちかと思えます。

ここ数年みましても、福岡で開催されたものだけで、知事も申しておりましたが、世界体操新体操選手権、それからブレイキンワールドシリーズ北九州で開催されました。

また、福岡国際マラソンについては、一度は幕を下ろしましたが、この伝統ある大会を終わらせてはいけないという思いから、県も主催に入りまして、また新しい視点を持った大会として生まれ変わらせることができました。

そして今年は世界水泳、それからツール・ド・九州2023が開催されます。

私どもも楽しみにしており、一生懸命準備をしているところでございます。

こうした大規模なスポーツ大会が開催されること自体の効果というのは当然大きいものではあります。それだけではなく、その成果をレガシーとして、地域の振興や活性化に結びつけること、そして、元気になった地域がまたスポーツを後押ししていく、このように後につなげていくことが何より大事であると考えております。

また先月、福岡県障がい者スポーツ大会が開催され、私も現地で見学させてさせていただきました。

また、パラアスリートの方の素質、あるいは潜在的な能力を見いだすための取り組み、フクオカパラスタープロジェクトの取り組みや浦田委員から先ほどお話ございましたが、高見小学校での事業などこうした取り組みを通じて、いろんな心身の特性や多様性、それを皆、お互いに認め合って、尊重し合って支え合う、そうした共助社会づくりを進めていくこういった視点も本当に慈悲深いものだと考えております。

今日は次期計画策定に向けて貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。

競技力向上のための持続可能な環境において、ハード面、ソフト面の両方が必要とご意見をいただきました。

また複数の委員さんから運動機会を増やすということで、大人と子どもを結びつけた取り組みが有効であるというご意見もいただきました。

アーバンスポーツの世界でもそうした取り組みが実際に行われているという貴重な情報もいただきました。大変参考にさせていただきたいと思います。

それから、文化、スポーツこれは両輪であるという言葉いただきましたが、我々もそのことを含めて検討したいと思っております。

情報発信の工夫も、我々はこれからいろいろ考えていきたいと思っております。ありがとうございます。

部活動の地域移行ということもありまして、やはり地域との連携、それを強めていく必要があるということも改めて私共も大きい課題として考えておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

本当に貴重なご意見をいただきまして、これも次の計画、次の作業に向けて参考にさせていただきたいと思っております。

次の審議会は9月に予定してありまして、ワーキングなどもありますので、本当にタイトなスケジュールではございますが、是非とも委員の皆様のご専門的な知見からのご意見をたくさん賜りたいと思っております。そのことをお願いいたしまして私からのお礼のあいさつとさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

#### 【事務局】

以上をもちまして、令和5年度第1回福岡県スポーツ推進審議会を終了させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

机上に配布させていただいております、現行のスポーツ推進計画及び調査報告書については、机上に置かれたままご退席ください。